

2015年10月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時

2015年10月3日(土) 10:00~16:00

2. 開催場所

中部品質管理協会 研修室

3. 参加者<50音順、敬称略>出:出席、欠:欠席、書:書記、休:休会

井上	欠	伊藤	出	雲丹亀	欠	梅本	欠	大見	出	合田	出	城越	出	杉浦	出
則尾	欠	中山	出	林	出	舟山	欠	牧野	出	三浦	出	山口	書	横尾	出
										池田	休	森	休	和田	休

4. 見学者紹介

住友電装(株)の合田氏から挨拶

5. リニアソレノイドにおける推力特性の最適化設計

関西品質工学シンポジウムで発表した標記の事例を紹介。

以下について議論があった。

- ・シミュレーションの場合、制御因子および誤差因子の水準幅を適切に設定しないと利得の再現性が得られないことがある。
- ・L18直交実験を3回程度繰り返せば、そのシステムの限界が見えてくる。

6. トイレ用携帯消臭剤の開発

- ・9/29中品協「業務改善事例発表大会」で発表した内容を復講した。
- ・発表資料最終版の送付要望があり、後日配布することとした。

7. 輪講 論説集 第1編 第4章

本章は、タグチメソッドで扱う数値の意味、計算方法についての解説されている。

内容に関して各位から、特に実験の再現性(試作と量産品)について、各種議論がされた。

8. T法の項目選択の方法

T法で、課題解決の解析をする場合、項目選択を実施して、推定精度の向上を実施する場合がある。項目選択をする判断基準として、貢献度の悪い項目(SN比の差が、マイナスとなる項目)を削除していくのであるが、従来は、"0"以下を削除して、SN比が最高となるところまで実施していた。今回、"-0.1"以下を削除していくこととし、ゼロ以下と-0.1以下の比較を行った結果を報告。貢献度が、-0.1以下を削除していく場合、推定のSN比が高くなることを報告した。

9. 次回

日時:2015年11月7日(土) 10:00~16:00

場所:アイテックインターナショナル事務所

以上